

平成29年度第1回市民と市長の対話集会

市長と語ろう！

ほっとミーティング

テーマ ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成29年（2017年）4月26日（水）
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 花水公民館 2階 集会室ホール
- 3 参加者 5人 傍聴者 13人



ほっとミーティングの様子

4 市長あいさつ

皆さんこんばんは。本日はお忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき誠にありがとうございます。

ほっとミーティングは、地域の皆さんのお話を伺い、御意見や御提案を市政に反映することを目的とし、取り組んでいます。

市長に就任した一期目には、東日本大震災が発生したことから、安心安全に関する対策を重点に置き、皆さんのお話を伺いました。それ以降は、各地域の良さをどう発揮していけばよいか、課題を取り上げてきました。

現在、全国的に人口が減少しており、行政運営が継続できるかどうか厳しい時代を迎えています。本市でも、平成22年11月の26万863人をピークに人口が減っている状況です。国からは、自治体が存続するため、将来を見据えた戦略をたてるように、との指示がありました。

そこで、平塚市は今後目指すまちづくりの計画として、新たな総合計画「ひらつかNext」を策定しました。計画の重点施策を、「強みを活かしたしごとづくり」と「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」として、このほっとミーティングでは、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、市民の皆さんから率直な御意見を伺って市政に反映したいと考えていますので、よろしく願います。

また、本日はできる限り私からお答えさせていただきますが、中にはこの場でお答えできないこともあるかと思えます。その際には、事務局から担当課への確認を行い、皆さんにお伝えさせていただきます。本日はよろしく願います。

5 主なミーティングの内容

①子育てについて

【参加者】

花水小学校では、図書整備ボランティアと読み聞かせボランティアがいますが、自分は図書整備ボランティアをしています。

学校の図書室の司書は、保健室の先生と違い、週に2、3時間の勤務で、年間で450時間程の勤務時間数です。平塚市では、早い時期にすべての学校に司書を導入しましたが、勤務時間数は他市（横浜市は1000時間、藤沢市は750時間）と比べて、少ないのが問題だと考えています。

図書室の人的配置や整備には予算が不可欠で、一昨年は50万円程だった予算が、昨年は30万円程に減額されています。司書のいない時間が長いため、ボランティアが支えている現状です。予算の増額について検討してほしいです。

【市長】

図書整備ボランティアに従事いただき、ありがとうございます。

教育においてまず大切なのは、子どもたちが、しっかり整った環境で授業を受けられる態勢作りだと考えています。その具体的な方法が、マンパワーをつけることです。現在、本市では、サン・サンスタッフ（学習支援補助員）など、教育を支える人材を予算化し、103人態勢で進めています。

学校の司書についても、教育において必要な人材です。年間で450時間という勤務時間では足りていない部分があるかもしれません。

教育費の財源において、どこを重点的に充てていくのかと検討していったなかで、現在の状況になっていると考えています。この場で、学校の司書の勤務時間を何時間増やします、という回答は出来ないのですが、どれだけ予算配分や勤務時間等で検討できるのかを担当課に伝えていきます。

予算の削減については、平成28年度予算の策定の際、税収の落ち込みから、全体で10%を削減しています。従いまして、先ほどお話があったとおり、50万円が30万円程度に減っています。

しかし、以降については、将来の子どもたちへの投資として、教育費は積極的な予算確保をしています。どこまで充実できるかどうか、引き続き、検討していきたいと考えています。

【参加者】

学校の図書室の将来を考える人がいないと思います。予算に即した計画しか立てていないため、発展的な計画を立てることができない現状があります。

【市長】

学校の図書室は、以前、ほとんど使われていなかった時期がありました。しかし、学校に司書を導入してからは、書籍の紹介などをおして、子どもたちが本に触れる機会が増え、図書室の機能が充実してきました。多くの司書の方、ボランティアの方の支援のおかげだと思います。御提案について、どこまでできるかどうか検討していきたいと考えています。

【参加者】

地域の図書館としては、各学校と南図書館。また、八重咲町に升水記念市民図書館があります。地域には、司書の資格を持つ方が多くいると思いますが、人的資源の配分についても考えていかなければならない。

【参加者】

学校に携わる学習支援補助員の方々は、雇用保険の関係で、勤務時間が少なくなっています。雇用保険のためだけに、時間を減らすことは再考してもいいのではないのでしょうか。また、予算については、教育に重点的に配分していただきたい。人材育成のためには、小学校くらいのお子さんに充実した教育を受けてもらうことが大切だと思います。

子どもたちが図書館に行くときの動機づけとして、施設面の魅力もあると思うので、中央図書館もきれいに整備していくといいと思います。

②高齢福祉について

【参加者】

高齢者の食育について考えていかなければならない。腸内環境が良ければ、病気を減らすことができます。病気を予防するために、普段から運動を取り入れるなど、そうした意識も大切だと考えています。

また、福祉に関して相談をするため、窓口に行きましたが、解決できる窓口が分かりづらかったです。市役所全体で情報を共有し、窓口を整理してほしいと思います。

【市長】

食育に関しては、地域で活動している団体があります。また、健康課では、市民の方向けに、健康づくりを指導していますので、参考にさせていただければと思います。

福祉については、保健福祉総合相談の窓口がありますので、お気軽に相談ください。ただ、分かりづらい部分については、組織として検討する部分もあると考えています。

要介護者にならないためには、介護予防は大切です。平成29年4月から、

高齢者に対する介護予防、相談等に対応する、地域包括支援センター（高齢者よろず相談センター）を3か所増やし、13か所になりました。高齢者の方々が、住み慣れた地域で自立した生活ができるような仕組みを作っていくことが、目指すべき地域づくりだと考えています。

高齢者の問題として、独居や老老介護などの課題があります。平塚市では、緊急通報システムや見守り機能の付いた歩数計、位置情報システムなどの利用も検討できますので、地域包括支援センター（高齢者よろず相談センター）で御相談いただき、活用ください。

【参加者】

独居老人の問題は課題です。原因としては、家族関係が希薄になっていることが挙げられます。地域が関与できるのは限界があるため、行政が関与するような仕組みも大切だと思います。

③安心安全について

【参加者】

一点目は、「ともに生きる社会 かながわ憲章」を活用してほしいことです。津久井やまゆり園の事件を受け、神奈川県が作成したのですが、こちらを広報等でPRし、有効活用してほしいです。

二点目は、障害者差別解消法の件です。昨年4月に法律が施行されましたが、配慮をすべき内容等を、市民に対してPRしていただきたいです。

三点目は、防犯カメラの設置です。市内中心街には5台の設置があると聞いています。最近の事件や事故では、防犯カメラの有効性が立証されているので、設置を進めてほしいです。

四点目は、ヘルプマークの啓蒙活動をしてほしいことです。東京都がデザインして、神奈川県が作ったマークですが、有効活用するためにPRをしていただきたいです。見た目にはわからない障がい者の方や妊婦の方に有効だと考えています。

五点目は、モデル地域として進めているゾーン30の拡充を推進してほしいことです。なでしこ小学校の周辺に、「ゾーン30」という、車の30キロ制限をしている箇所があります。なでしこ小学校の他には、松原小学校と花水小学校にもあるようです。危険な箇所は、ガードレールや道路面に色を塗ったり、対応を検討していただきたいです。

六点目は、津波避難ビルに関する情報提供の件です。津波避難ビルに指定された後、そのビルに対する支援や市民に対しての継続的な情報提供を進めていただきたいです。

【参加者】

中央地下道と浜岳地下道を北から南に越えた所にある、線路に平行しているバス通りの安全性について懸念しています。歩道が無く、狭い割に交通量が多く、危険な道路です。子どもたちが通る際に心配になります。せめてラインを引いて、車と歩行者を分けるなど、対応を検討してほしいと思います。

中央地下道についても、段差があり、自転車が通りづらいです。段差を平坦にするだけでも、だいぶ楽に通行ができます。また、自転車は左側通行なのですが、逆走する自転車が多いので、注意喚起が必要です。

なお、羽衣公園付近の道路についても、交差点が多く、事故が多い場所です。

【参加者】

平塚市では、戦後、旧市街の区画整理をしています。しかし、その際に、桃浜町と立野町の北部、富士見町、この3地区は区画整理に反対しました。その結果、道路の拡幅が実施されず、八重咲町や松風町のような広い道幅が整備できませんでした。したがって、バス通りが狭くなっている歴史的な事情があります。当時の都市景観に対する反対運動が今の道路事情につながっています。

【参加者】

平塚市の総合計画審議会では安心安全について議論をしました。その際に、総合計画の優先事項として、強い経済力を取り上げました。経済の力により、子育てや高齢福祉を充実させることができるからです。ただ、限られた財源で、一番後回しになるのは、安心安全に関する防災対策だと思います。東日本大震災や熊本地震などの大きな災害から年数が経過すると、市民の防災意識は風化します。財源をしっかりと確保し、対応してほしいです。

【市長】

平成28年7月、障害者支援施設である県立津久井やまゆり園において、大変痛ましい事件が発生しました。神奈川県では、こうした事件が二度と起きないためにも、ともに生きる社会の実現をめざし、「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めました。平塚市でも、障害の有無にかかわらず、皆さんで支えあっていく社会づくりが重要だと考えていますので、多くの方に周知いただくよう進めていきたいと考えています。

障害者差別解消法の件ですが、障害者の方々の動作を阻害するような原因を無くしていくことが、合理的な配慮だと思います。そういう意味も含めて、皆さんに、こうした視点から街づくりが必要だということを積極的に周知していきたいと考えています。

防犯カメラの設置ですが、小学校28校、中学校15校のすべてに設置がされています。また、平成29年度から、自治会等を対象とした防犯カメラ設置の補助制度を実施しています。元々、神奈川県で補助制度を実施しており、本

市も併せて補助することで、少ない負担で設置することができます。防犯カメラは、プライバシーの問題もありますが、犯罪抑止に効果的な面がありますから、各地域で合意のもとに、設置の検討ができればと思います。

中心市街地には、防犯カメラが5台、ららぽーとへ向かう道にも複数台の防犯カメラを設置しています。平塚市は、治安が悪いイメージがある、とよく言われます。決して、犯罪発生数が極端に多いわけではないのですが、体感治安が悪いように感じています。どうやって安心できる街にできるのか、防犯の担当課と話をしています。

ヘルプマークやゾーン30の有効性については、積極的に市民に対して情報提供をしていきたいと思っています。

津波避難ビルについては、現在、地震マップで示していますが、公共施設、民間施設を合わせて78か所を指定しています。自治会とビルの所有者、平塚市の3者が協定を結んで、何か問題があっても早急な解決を図ることができます。線路より南側には、約4万人の方が住んでいて、避難の収容スペースとして約7万2千人分の確保が来ていますが、確実に避難できるかという点と明確でない部分もあります。引き続き、地域の皆さんの御理解をいただきながら、避難ビルの確保を進めていきたいと考えています。

海岸エリアについては、魅力化を進めていく必要もあります。施設の充実とともに、安全面という点で、避難施設の確保もしていければと思います。

桃浜町のバス通りですが、確かに、交通量が多く危険だと思います。ただ、交通対策として、すぐに道路を拡幅することは難しいです。ついでに、道路面の色分けをして、車のスピードを落とさせるような工夫ができるかどうか、交通対策の担当課と検討していきたいと思っています。

中央地下道の課題については、多くの意見を聞いています。車と交錯するような危険な場所になっているため、安全対策として、土木の担当課と検討していきたいと思っています。課題として認識していますので、どう安全を確保できるかを考えていきたいと思っています。

【参加者】

中央地下道について、せめて自転車が通るところは、いち早く、段差が無いようにしていただければと思います。

【市長】

羽衣公園周辺の道路については、経緯があるにしろ、住んでいる方たちにとって、安全の確保は必要です。そうした状況があることを土木の担当課に話していきたいと思っています。安全対策について検討しなければなりません。

子育てや高齢福祉、教育等の施策の充実には、経済の発展が必要になります。平塚市が選ばれるまちになるためには、予算の確保により、施策を進めていか

なければなりません。平塚市はもともと、農業や工業、商業、漁業などの産業がバランスよく発達していました。ただ、人口がだんだんと減っていく中で、人口を維持していかなければ、まちの体力を維持することができないと考えています。

桃浜町や立野町などの狭あい地区については、消防車が入れないことにより、災害が発生した際に、被害が拡大する可能性があります。阪神淡路大震災の時には、倒壊したままの建物が、通電によって火災を発生させたことがあります。そのため、今年の2月頃に、限られた地域ですが、感震ブレーカーを無料で配布しました。平時や非常時についても、安心安全を常に意識する必要があると考えています。まずは備蓄など、できることから進めていかなければなりません。

現在、北朝鮮のミサイル問題がニュースで取り上げられています。万が一、有事が発生した際の行動については、頑丈な建物や地下に逃げるなど、ホームページで広く情報提供をしています。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

線路に平行したバス通り、中央地下道、羽衣公園付近の道路について

一点目の「線路に平行しているバス通りに歩道が無く、狭い割に交通量が多く、危険な道路」との御指摘をいただきましたことへの対応としましては、本市では、交通事故防止に関する注意喚起看板を自治会に配布し、交通安全の向上を目指しています。活用したい場合には地元自治会に御相談ください。

二点目の「中央地下道について、自転車は左側通行ですが、逆走する自転車が多い」ことへの対応としましては、今年度、当該地下道へ自転車通行帯の整備を予定しており、現在、交通管理者（平塚警察署）と協議を進めているところです。また、交通安全運動や教室、キャンペーン等で、自転車は左側を通行することが原則であるということを、広く市民の自転車のマナーアップに繋げていきます。

なお、本市では、自転車左側通行に関する注意喚起看板を自治会に配布し、交通安全の向上を目指しています。活用したい場合には地元自治会に御相談ください。

三点目の「羽衣公園付近の道路は交差点が多く、事故が多い場所」との御指摘をいただきましたことへの対応としましては、本市で人身事故の実績について調査したものの、どの交差点で事故が多いのか特定できませんでした。地域の皆様方のニーズに合った対策に取り組むには、具体的な対策箇所、改善内容などを御提案いただいた上で協議を進めていくことが有効と考えられますので、

御提案を伺い検討し、交通管理者（平塚警察署）等の関係機関との協議を進めていきます。

なお、本市では、交通事故防止に関する注意喚起看板を自治会に配布し、交通安全の向上を目指しています。活用したい場合には地元自治会に御相談ください。

（事務担当は交通政策課自転車対策・交通安全担当）

中央地下道と浜岳地下道を北から南に越えた所にある線路に平行しているバス通りの安全性について、交通管理者（平塚警察署）と協議した結果、車道幅が狭い一部を除き、車両が通行する区分を区画線によって表示できる事になりましたので、早急に歩行者の安全確保のため対応していきます。

（事務担当は道路管理課維持担当）

中央地下道（海岸南中線）については、「自転車は左側通行」や「右側通行禁止」の看板や路面標示を行っていますが、自動車や自転車の往来が多く交錯しており、改善が必要であると考えています。

今後の安全対策としましては、自転車の通行位置と走行方向を示す「自転車マーク」や「青い矢印」を路面に明示することにより、車道混在型の自転車走行環境の整備を行い、安全性を高めていきます。また、あわせて自転車通行帯の路面の段差についても改善していきます。

（事務担当は道路整備課計画担当）

6 市長によるまとめ

本日は皆さんそれぞれの立場から、御意見や御提案をいただき、ありがとうございます。是非とも参考にさせていただきたいと思います。

平塚市はよく庶民的と言われますし、以前にとったアンケートでも、「あたたかさ」がキーワードとして挙がっていました。現在、シティプロモーションにおける活動でも、手をつなぎたくなる街を目指し、住み続けていて良かったと思えるような街にしていきたいと考えています。

特に、子育てについては重点的に取り組んでおり、子ども子育て推進会議を立ち上げ、各担当課で課題を情報共有しています。今年4月からは、子育て世代包括支援センター“ひらつかネウボラルーム はぐくみ”を開設して、保健師や助産師などの専門家に相談しやすい体制作りをしています。親御さんと連携して子育てをしていくようにしていければと思います。もちろん、乳児や幼児だけでなく、小学校に進学した児童に対しても、行政として力をいれていかなければなりません。

平塚市を魅力ある街にするのが、私の役目だと考えています。皆さんの御意見や御提案を参考にしながら、引き続き、街づくりに取り組んでいきたいと思えます。本日はありがとうございました。

アンケート結果報告

【アンケート回答数 12件】

問1 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	4人
まあよかった	5人
どちらともいえない	0人
あまりよくなかった	1人
よくなかった	0人
回答なし	2人

問2 本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

- ・ 特定の話が長かった。
- ・ 参加者が少なく、さびしい。
- ・ 一人一人の発言時間の調整に難。
- ・ 参加者をどうセクションするか、検討したほうが良いかもしれません。
- ・ 内容よりストレスの溜まるような言葉が飛び交い、残念に思います。
- ・ 円卓討議を傍聴する形ですが、傍聴席から分かりやすく進行してほしい。
- ・ 提案や意見を聞くだけでなく、市長の思いをもっと聞けると良かったです。
- ・ じっくりと話すことができ、とても良かったです。
- ・ 各テーマでいい意見や提案、現状を聞いてよかったです。市長も真剣に耳を傾けて回答していただいたので、期待や楽しみが増しました。
- ・ 市長さんには、真剣にお話を聞いて頂けたと思います。